

特許協力条約

PCT

REC'D 20 OCT 2005

WIPO

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条)

[PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の書類記号 PCT-0407	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/J P 2004/009272	国際出願日 (日.月.年) 24.06.2004	優先日 (日.月.年) 27.06.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C07D401/12, 401/14, 403/12, 405/14, 409/14, 413/14, 487/04, A61K31/4545, 31/501, 31/506, A61P1/16, 3/00, 3/04, 3/06, 3/10, 7/00, 9/10, 9/12, 13/12, 19/06, 21/00 (以下、続葉に続く。)		
出願人 (氏名又は名称) 萬 有 製 薬 株 式 会 社		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条 (PCT36条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
 - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT規則70.16及び実施細則第607号参照)
 - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第802号参照)
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 第II欄 優先権
 - ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
 - ☒ 第VII欄 国際出願の不備
 - ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 26.01.2005	国際予備審査報告を作成した日 07.10.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 荒 木 英 則	4 C	9 7 3 6
	電話番号 03-3581-1101 内線	3 4 5 2	

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)

請求の範囲

1-19

有

請求の範囲

無

進歩性(IS)

請求の範囲

1-19

有

請求の範囲

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲

1-19

有

請求の範囲

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

見解は、国際調査報告で引用された以下の各文献の記載に基づいて示された。

文献1: WO 03/024929 A1 (NOVO NORDISK A/S)

文献2: WO 02/06223 A1 (ABBOTT LABORATORIES)

文献3: JP 2002-523413 A (オーソマクニール・ファーマシューチカル・インコーポレーテッド*)

文献4: WO 01/60806 A2 (NEUROGEN CORPORATION)

文献5: WO 01/77101 A1 (ASTRAZENECA AB)

○請求の範囲1-19について

文献1及び2には、ヒスタミンH3受容体に対するリガンドとして有用な含窒素飽和ヘテロ環誘導体が記載されている。ここで、請求の範囲1-19に係る発明と文献1及び2に記載されたものとを比較すると、前者は含窒素飽和ヘテロ環へ置換される化学構造として、p-位のみが置換された含窒素不飽和ヘテロ環により置換された酸素原子が結合されるものであるのに対し、後者のものでは当該部位に窒素原子や炭素原子が置換されている点で相違する。

一方、文献3から5には、含窒素不飽和ヘテロ環により置換された酸素原子が置換された含窒素飽和ヘテロ環誘導体が記載されているが、該含窒素不飽和ヘテロ環はp-位のみならず複数の部位が置換されており、かつ、その機能はヒスタミンH3受容体に対するものとは全く異なるものである。してみれば、当業者といえどもこれらの文献の記載によって請求の範囲1-19に係る発明に想到し得たものとはいえない。

したがって、請求の範囲1-19に係る発明は、文献1から5の記載によっても新規性および進歩性を有するものである。

第Ⅶ欄 国際出願の不備

この国際出願の形式又は内容について、次の不備を発見した。

○請求の範囲 19 について

請求の範囲 19 において、反応により得られる中間体として式(XVI)で表される化合物のみを挙げているが、これを調製するための化合物である、式(XIV)で表される化合物では置換基 R^{II} を有さない(III)で表される置換基を有するものについても記載されており、矛盾している。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 欄の続き

様式 PCT/IPEA/408 (表紙) 中の国際特許分類 (IPC) の続き

Int. Cl⁷ A61P25/00, 25/08, 25/16, 25/18, 25/20, 25/22, 25/24, 25/28, 25/30, 25/32,
25/36, 43/00